

Funehiki High School News vol.115

◆ドローン特別講座を開講しています

昨年 12 月、田村市と慶應義塾大学は、ドローンを活用した研究・教育活動や地域振興活動に取り組むため、連携協力協定を締結しました。本校では、その人材育成活動の一環として、ドローン特別講座を開講しています。3 月 1 日現在、5 回目の講座が開かれ、生徒たちは着々とドローン操作の腕前を上達させています。3 回目の講座からは、ドローンを活用したい分野ごとに班分けを行い、それぞれの課題を見出しました。これからは課題に応じた操作を身につけられるよう、より専門的な内容の講座が展開されます。生徒たちは毎回目を輝かせて、最新技術を吸収しています。



◆進路報告会を開催しました

2 月 9 日、3 年生の代表生徒 9 人による進路報告会を行いました。代表者は「早くに進路目標を定め、目標達成のために情報を集めた。」「面接練習と試験勉強に積極的に取り組まなければならない。」「自発的に家庭学習や発展的な課題に取り組んだ努力が、進路実現につながった。」「高校生活で身につけたリーダーシップが武器になった。」など、それぞれの経験に基づいたアドバイスを後輩に送りました。1・2 年生は先輩の貴重な話を聞き、刺激を受けたようです。メモをとりながら真剣に先輩の話聞く姿からは、進路活動に向けた熱意が感じられました。



◆消防団講話

1 月 20 日、田村市消防団大越地区隊の団員の方をお招きし、3 年生を対象とした消防団講話を行いました。消防団員と消防隊員の違いや、消防組織の仕組み、そして地域の防災を担う消防団の役割などを教えていただきました。生徒から団員の方に質問も出るなど、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識が高まったようです。



◆スーツ着こなしセミナーを行いました

2 月 9 日、スーツ販売店の方をお招きし、3 年生を対象にスーツ着こなしセミナーを開催しました。なかなか知る機会のない社会人としての着こなしマナーを、スーツを着用した生徒をモデルとして、わかりやすく説明いただきました。4 月から制服ではなくスーツに袖を通すことになる生徒たちは、真剣なまなざしでセミナーに参加していました。

◆夢を育む講演会を開催

1 月 16 日、又野亜希子先生をお招きして、「命の輝き～車イスから見える世界ってけっこう素敵～」というタイトルで講演いただきました。又野先生は、不慮の交通事故にあって以来、車イスで日々の育児・家事をこなし、明るく生活されている方です。今までの習慣や経験が突然通用しなくなった絶望を、どのように乗り越えたか、お話しいただきました。視点を変えること、今できることを確実にこなすこと、仲間や家族に支えられていることを意識すること、一日一日を大切に生きていくことの意義を又野先生から教えていただき、生徒たちは大きな拍手を送りました。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...school@funehiki-h.fks.ed.jp



静寂の時

Jennifer Becker

ジェニファー・ベッカーさん
(アメリカ合衆国
ミネソタ州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	45

私が最後に「静寂の時」を過ごしたのはいつだったでしょう。ずいぶん前のことのような気がします。あわただしく多忙な生活の中で、心静かに落ち着く時間を見つけることは困難です。一度その時間を見つけても、生活の心配ごとや関心事から平穏を守ることはなかなかできません。仕事を含めて、自分がやらなければいけないと思っていることが、いつもリストとして心の中にあるため、平穏な時間をつくることは本当に難しいと感じています。

そのリストにあることをやり終えたら休息しようと何年間も考えてきましたが、毎日生活しているとリストは尽きず、やるべきことが終わることはまずありません。終わると考えるべきではないのかもしれないですね。

とはいえ、私たちは自分を再充電するために、休息することが許されているはず。だからこそ、喜びの中で、笑いや涙の中で、あるいは物事が絡み合って混沌とした状態でも、ベストを尽くすことができるのだと思います。でも、実際に私たちは、そうしているのでしょうか。私たちにはどのくらいの休息が必要なのでしょうか。

私は旅が好きで、冒険心を持っています。約 2 年前に日本に来てから、冒険したいという私の気持ちは、休息を求める気持ちよりも強くなりました。ついに私は、広島から北海道まで旅に出ました。その探索と発見の旅は、どの瞬間瞬間も素晴らしいものでした。それでもやっぱり、静かで穏やかな時が必要であることは否定しません。



人に休息が必要であることでは、日本もアメリカも、どこも変わりません。人々は休息を切望しています。でも、ほとんどの人は、実際に休息をとってくつろいでいるようには見えません。趣味や人生設計、それに似たようなことで時間が埋まってしまいます。

私は日本に来て、日本には人を休息に惹きつける静かな場所が、アメリカよりも多くあることに気が付きました。世間から離れることができる、静かで人目につかない場所があります。座ることのできる巨岩のそばを流れる川。心を落ち着けてカフェラッテをすすることができる、人気のコーヒーショップ。座って緑の山々や樹林を眺めることができる、野草におおわれた静かな道――。

ずいぶん前、初めて蔵王に行き、とあるカフェに入りました。独り座って、お気に入りのエリオット (T.S.Eliot イギリスの詩人) の詩を読みながら、流れているのに気付かないほど雰囲気や溶け込んでいる優しい音楽を楽しみました。カフェのオーナーは静かで親切な人でした。このカフェの優しい雰囲気と、エリオットの思考と世界観が、私の心を静めてくれました。少しの間、忙しさから離れ、気持ちを集中し直すことができました。

その少しの時間が、私に、なぜ私たちに「静寂の時」が大切なのかを、改めて教えてくれたのでした。

もうすぐ新年度が始まりますが、先生も生徒も同じように、新年度の準備に忙しい日々が続きます。それに伴う緊張、興奮、忙しさは、世界のどこでも同じです。

誰にとっても静けさが必要な時があり、誰でも静けさを求めるための方法をそれぞれ見つけます。時には、人目を避けた「静寂の時」が必要なのです。